

Copyright Notice

This document is provided under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License (CC BY-NC-SA 4.0):

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/>

You are free to:

- Share — copy and redistribute the material in any medium or format
- Adapt — remix, transform, and build upon the material

Under the following terms:

- Attribution — You must give appropriate credit to the publisher, provide a link to the license, and indicate if changes were made. You may do so in any reasonable manner, but not in any way that suggests the licensor endorses you or your use.
- NonCommercial — You may not use the material for commercial purposes.
- ShareAlike — If you remix, transform, or build upon the material, you must distribute your contributions under the same license as the original.

About the Project

This document was created with the permission of participating publishers as part of the Japanese Multi-Volume Sets Discoverability Improvement Project, funded by the Council on East Asian Libraries and the Mellon Foundation for Innovation Grants for East Asian Librarians.

『美術園』総目次

凡 例

- 一、本目次は、『美術園』第一号から第十九号までの各号の総目次である。
- 一、本目次の表記は、各々の見出しを記し、適宜最小限を本書解説者（森）が補足した。
- 一、記事執筆で該当する人物と思われるものには、（ ）で名前を付した。杉崎に関しては、解説者の判断で行なった。

美術園 第一卷目次

● 第一号 (明治二十二年二月五日)

美術園概則

付録 小林清親「着色甲冑」(多色石版)

第一図 久保田桃水「老松」

第二図 日高鐵翁「弱竹」

第三図 五岳「寒梅」

第四図 鮮斎永濯「魚籃觀音」

第五図 独逸人リイーエールス「月の出」

第六図 松本楓湖「夜間の桜」

第七図 柴田是真「駒」

第八図 博士△K「アフロシエテ」

緒言

美術の説

美術の改良は精神上より着手せざる可らず

高橋五郎

美術園の発刊に就て

鶯村居士 (吉岡哲次郎)

美術の発兌

(山田) 美妙斎主人

雑録

日本画の将来如何 (教育報知一月十二日より転載)

市島金治

雑報

羅馬美術学校 (大熊氏広書簡より)

第三回内国勸業博覧会出品部類目録

美術展覧会の宿題

意匠は肝要 (日本美術協会報告第十三号より転載)

美術品に関する九鬼隆一宝物取調委員長の演説

(同第十四、十六号より転載)

杉崎歸四之助

高橋愛山 (基二)

22

2

3

5

7

9

11

13

15

17

19

21

22

26

26

26

29

29

34

34

34

34

34

34

37

甲冑の図	42
大日本美術園藝会	42
東京美術学校入学生	42
絵画品評会	42
日本音楽会	42
英国美術会議（時事新報一月二十二日）	43
出品課題及図案宿題	44
表紙の模様（渡辺望図案）	44
社告	44
広告（本誌勸進元である和洋印刷彫刻会社秀明堂の 広告あり）	45
美術園掲載図案募集・全国美術家及工業家考按家諸 氏に望む	54
●第二号（明治二十二年三月五日）	
付録 一品有栖川熾仁親王殿下肖像	57
第一図 渡辺省亭「牝雄鶏」	59

第二図 小林清親「豫讓」	61
第三図 尾形月耕「富士」	63
第四図 田口米作「少女月琴の図」	65
第五図 独逸人某「鼠」	67
西洋美術をして日本に帰化せしむべし	
美術園の発兌（承前）	69
雑録	
甲冑の沿革 一	72
彫刻品蒔絵鑄物其他諸彫刻早取の伝法	76
寄書	
市島金治君の問に答ふ	78
葦手書も亦弄ぶ可し	80
嬉さの余り	81
醜美鑑	82
秘密の婚姻 一	
米國蘭 ^{ランダ} 駝兒 ^{トル} 氏原著	
日本烏金山人（井上勤）訳述	82
老牛親史 魯文	82
環峰居士	81
真木痴囊子	80
小川三知	78
音川安親	76
滝川龜太郎	72
山田美妙斎	70
〔杉崎歸四之助〕	69

雑報

東京彫工会

第三回 井上探景「芝浦之景」
第四回 独逸人某「牝牡の虎」

107

青年絵画共進会

裸体画の美術たる所以を論ず 一 (杉崎歸四之助)

111

久保田米僊氏

雑録

109

表装用緞子模様 (栢野小陶図案)

本邦刀鍛冶の由来 一

山東野人

112

九鬼氏の演説 二

虎の性質 (「少年園」第七号より転載)

115

日本 (東京) 美術学校教諭諸氏

詩歌沿革を論ず (「人民」第八号より転載)

117

仏人ビンググ氏

瓊浦散人 (松本胤恭)

120

独逸人ネット氏

美術は天性に基く (日本美術協会報告第十五・十六号より転載)

123

美術に関する農商務大臣 (井上馨) の演説

寄書

細川潤次郎

128

(二十三年開催内国勸業博覧会に關して)

日本画改良の可否

杉本克次

129

社告

秘密の婚姻 二

井上勤

129

● 第三号 (明治二十二年三月二十日)

雑報

付録 小林清親「古代織地模様」(多色石版)

第三回内国勸業博覧会

129

第一回 村瀬玉田「風竹」

美術品の展覧 (京都温知会祭典)

129

第二回 KS写生「インキ壺」

錦画流行の変遷

129

社告 130

九鬼図書頭の演説 三 130

緞子模様の批評〔塩田眞〕 134

日本の美術〔英国出版のアート、オフ、ジャパン〕 134

訂正〔二号のネット氏の記事〕 135

社告 135

●第四号（明治二十二年四月五日）

付録 眞生楼〔小林清親〕「森川杜園模造春日神社宝

物龍燈鬼」〔二色石版〕 145

第一図 社員S写「礼拝堂の図」 147

第二図 米国美術雑誌訳出「図画の基礎」一 149

第三図 同 二 151

第四図 園丁B写「リシナ旅行図」〔印度神〕 153

第五図 広国画並刻「安芸の宮島」〔日本三景の内〕 155

裸体画の美術たる所以を論ず 二 〔杉崎歸四之助〕 157

雑録

甲冑の沿革 二 滝川亀太郎 159

聖徳太子七種宝物の内 梵網経 音川安親 162

本邦刀鍛冶の由来 二 山東野人 163

美術は天性に基く 二 細川潤次郎 165

詩歌の沿革を論ず 二 瓊浦散人 167

寄書 中村さく 170

告小川三知君 井上勤 173

秘密の婚姻 三 173

雑報 173

工芸博物館 177

日本音楽会〔三月二日開催〕 177

京都の繡業 177

青年絵画共進会 178

江崎禮忠氏〔米国写真修業より帰国〕 178

〔京都温知会〕美術品展覧会の延期 178

木版彫刻師〔組合内の不和〕 178

西洋館開扉並に欄間の図案〔山高信離図案及び塩 178

田眞の批評	179		
団子及扇子	181		
東京共進会の授賞	181		
滋賀綴通	181		
博覧会社〔京都御苑内開催〕	181		
技術家懇親会〔三月二十日銅石版の技術家・画工の会〕	182		
美術展覧会の売店	182		
画家〔和田蓼洲〕の洋行	182		
日本園芸会	182		
新刊雑誌「大同新報」「写真新報」「文芸倶楽部」	182		
「興和之友」	182		
●第五号（明治二十二年四月二十日）			
美術園改良主旨賛成者	193		
新図 清水〔三寿〕生写「陶器藍模様花瓶」	195		
（三色）石版）			
第一図 広島邦光模刻「羅馬の記念碑」	197		
第二図 内海祥山縮図「厳嶋宝物黄楊の駒」	199		
第三図 樋畑雪湖「天和時代遊女の図」	201		
第四図 田口米作「老猫雛を窺う図」	203		
第五図 小林清親「丹後天橋立」（日本三景の内）	205		
審査官の判定ハ公明ならざるべからず	207		
〔杉崎歸四之助〕			
雑録			
美術は天性に基く 二	210	細川潤次郎	
甲冑の沿革 三	213	達観道人	
絵画博覧会論（官報三月二十六日より転載）	215		
フレデリック、ハリソン			
本邦刀鍛冶の由来 三	218	山東野人	
詩歌の沿革を論ず 三	221	瓊浦散人	
厳島宝物黄楊の駒	226		
寄書			
秘密の婚姻 四	226	井上勤	

雑報

内国勸業博覧会

230

美術展覧会へ行幸

230

皇后の行啓

230

田中芳男氏の講話

231

京都美術院の設置

231

開戸欄間の凶案〔尾形月耕凶案〕

231

エツケルト氏〔海軍音楽教師〕

232

奥国博覧会派出及関係諸氏の親睦会

232

美術館〔京都奈良に設置〕

232

美術館定価改正広告

234

美術館改良披露

236

●第六号（明治二十二年五月五日）

美術園改良広告

237

首巻 村井生写「新図銀香炉」〔三色石版〕

239

第一図 小林清親「松島沖二子嶋」〔日本三景の内〕

241

第二図 中島亨斎「菊池容斎自ら画像を画く」

243

第三図 河辺御楯「竹取物語」

245

第四図 岡本生写「欧洲鋳物古図」

247

第五図 久保田桃水「秋月図」

249

日本固有美術の保存

〔杉崎歸四之助〕

251

論説

教育と美術の関係（四月二十日東京公論より転載）

253

歌の話（東洋学会雑誌より転載）

258

漫録 三上参次

258

漫録

日本美術の由来

261

本邦刀鍛冶の由来 四

265

絵画博覧会 二 フレデリック、ハリソン

268

文芸

美術の徳

271

〔長歌〕

芳埜懐古

272

老松舎主

272

落合直文

272

東台観花二首	萩野和庵	272	工芸品見本	283
開炉	堀 芥舟	272	改良演劇場〔歌舞伎座上棟〕	284
偶題	雨森精翁	272	欧州絵画の価格	284
寄書			画工河鍋曉斎翁逝く	284
美術院の設置如何	鈴木券太郎	272	美術工芸者の保護〔佐野常民上書〕	285
質中村女史	福井さく女	275	美術展覧会開会延期	286
批評			五姓田義松氏帰朝す	286
〔日本美術協会〕美術展覧会新製品漫評 一		278	京都に於ける和歌大会	286
雑報			菊池容斎氏の遺筆	287
皇太后陛下美術展覧会へ行啓		280	書画付録の口上	287
皇后陛下 同		281	近刊雑誌	287
当日席上彫刻題並に舞曲番組人名			社告	288
宮殿内の画幅		282	賛成特別寄書家人名	293
漆器の利用		282	●第七号（明治二十二年五月二十日）	
借楽館		283	落合直文和歌	295
海外輸出の陶器		283	首巻 堀野写生「涛川惣助 七宝無線卵色暈花瓶」	
信楽陶器		283		

(四色石版)

第一図 内田州模刻「英王ヴィクトリヤ幼年像」	299
第二図 樋口探月「壽石」	301
第三図 芝山録写「皇居新図」二図	303
第四図 三島蕉窓「鶏」	305
第五図 尾形月耕「清正秘藏虎の頭」	307
折込附録 藤堂凌雲・巻菱潭「木版刷書画」	(308)
日本美術協会と「明治」美術会 一〔杉崎歸四之助〕	309
論説	
歌の話 二	三上参次 312
光の美 一	中川重麗 315
漫録	
日本美術の由来 二	黒川真頼 317
美術ハ天性に基く 三	細川潤次郎 319
見聞きのまゝ 一	君山居士〔滝川亀太郎〕 322
沈南蘋元信守信を評す・仏人ウキクトル、	
ユーゴーの見識・近松門左衛門の言	323

絵画博覧会論 三 フレデリック、ハリソン 325

文芸

美術といふこゝろを	三村安臣 331
今春中村梅蒼宿痾新癒云々	東郭散史 331
詠桜花六首	松本胤恭 331
谷地竹枝十首・木曾雜詩五首	西村天囚 332

雜報

〔日本美術協会主催〕美術展覧会褒賞贈与式	332
佐野常民演説・澗川惣助答辞・授賞者一覽 一	
故人北斎の扁額	335
羽田子雲翁の洋行	336
漆器の輸送	336
美人の眼	336
故河鍋曉斎	336
応挙画幅の展覧会	338
東京美術学校	338
朝鮮美術の退歩	338

美術商会

339

美術学会設立の計画

339

美術時絵学習所の設置

339

古物条例

339

大博覧会奨励に関する委託

340

楽器専売特許

340

川辺白鶴氏

340

外国少年の画工

340

井上〔馨〕伯の演説〔第三回内国勸業博覧会事務

協議席上〕

341

龍の画及び雕刻

343

博物館出品

344

社告

350

●第八号（明治二十二年六月五日）

諺

351

首巻 武田安親写「高村光雲作木彫鶏置物」

（着色木版）

第一図 社中撰「法隆寺織物古模様」（着色木版）

355

第二図 大森惟中識「美術展覧会行幸奉文写」

357

日本美術協会と美術会 二
〔杉崎歸四之助〕

359

論説

音楽の起源及其功用を論ず

ヘルベルト、スペンセル・本庄太一郎訳

362

美術の存在及び発達の性質を論ず

366

漫録

家屋建築論

370

美術ハ天性に基く 四

376

本邦刀鍛冶の由来 五

379

絵画博覧会論 四

383

文芸

正行

385

後醍醐天皇五百年のみまつりに

386

よしのの宮の山さくら花

387

東行途次訪中尊寺	西村泊翁〔茂樹〕	387	首巻図解	401
過函根山・上富士山	朝比奈珂水	387	近刊雑誌	402
批評			社告	410
〔日本美術協会〕 美術展覧会漫評 二		387	●第九号〔明治二十二年六月二十日〕	
雑報			告謹愛顧の諸君〔七月より毎月一回十五日発行に更〕	
帝国博物館及京都奈良博物館〔設置官制〕		391	第一図 清水三寿写「佐野常民所蔵木彫観音」	411
帝国博物館の組織		393	（三色石版）	
帝国博物館の役員		393	第二図 村上義和「水墨龍門の図」〔着色木版〕	413
帝国京都奈良の博物館		393	〔青年絵画共進会一等賞〕	
改良演藝会場の大額		393	第三図 衣笠豪谷「不老長寿」	417
仏国大博覧会の日本出品館		394	第四図 尾形月耕「昔話の図」	419
九鬼審査官長の〔第三回内国勸業博覧会〕 演説		394	美術世界の英雄崇拜（其一）	421
日本絵画協会設立〔狩野照信ら〕		399	論説	
北斎の画		400	美術の文化に及ぼす影響を論じて其制度の良否に	
ハンリー殿下画帖を求む		400	及ぶ	
器械の据付〔織物仕上げ器械〕		401	紫海小漁〔漁夫〕 纂訳	424
青年絵画共進会		401		

漫録

椿椿山小伝

近藤芳樹

432

民の烟

小中村義象

435

団洲と梅幸

独幹敖史〔大森惟中〕

438

絵画博覧会論 五

フレデリック、ハリソン

440

文藝

学ひの窓（唱歌）

小中村清矩

443

過坂本松堂先生郊居

武笠匪石

443

感事

佐藤六石

443

送鈴木真年君赴西京序

田中義成

444

批評

〔日本美術協会〕美術展覧会漫評 三

445

付 和歌三首

大和田建樹

448

付 古詩一篇

谷山春窓

449

雑報

ハインリヒ親王殿下〔府下在京画家と面会〕

449

明石の名誉〔俳優中村明石、青年絵画共進会二〕

等褒状

伊国皇帝陛下日本画を所望せらる〔川辺御楯揮毫〕

450

大日本音楽会

450

共盛陶器会社

451

リベルチー氏〔日本美術協会報告第十八号より転載〕

451

載

学士会員に於ける大鳥〔圭介〕氏の講演

452

上野行啓の模様〔青年絵画共進会〕

453

青年絵画共進会褒状贈与式〔一等賞小堀鞆音ほか〕

454

東大寺と法隆寺〔黒川真頼演説〕

455

明治美術会設置

458

付・明治美術会設立趣意書

459

出品課題及図案課題

459

首巻図解

460

近刊雑誌

460

美術園 第二卷目次

●第十号 (明治二十二年七月十五日)

美術園改正洒文 独幹敖史 (大森惟中) 3

第一図 古屋重寿縮写「巖嶋経の内分別功德品図」
(着色木版) 5

第二図 西山氏撰「野路の萩 古装布地模様」 7

第三図 木風文紹縮写「文晁筆縮図」 9

第四図 山高信離「文具考案図二」 11

青年絵画共進会出品諸君に望む (杉崎歸四之助) 13

論説

美術の社会に与ふる影響を論じて其制度の良否に

及ぶ (承前) 紫海漁夫纂訳 16

支那元明時代の陶器 (日本美術協会演説)

ブリンクリー 25

漫録

本邦刀鍛冶の由来 六

山東野人 32

絵画博覧会論 六 フレデリック、ハリソン 35

文芸

国ほぎ・うぐいす 三村安臣 41

酔後偶題二首 西村天囚 41

訪坂本松堂 武笠匪石 41

美人対花園 堀芥舟 42

批評

美術展覧会余評 42

青年絵画共進会漫評

44

雑報

奈良の古美術 47

大阪浪華杖頭会 47

	〔日本美術協会〕 美術展覽会授賞者 二	48					
	青年絵画共進会々長〔山高信離〕の書翰	53					
	行啓余聞〔青年絵画共進会〕	53					
	日本美術協会の総会	53					
	明治美術会〔アルフレッド、イースト演説〕	54					
	美術品の模図	57					
	雌鶏の置物及び楠公像	57					
	文晁展覽会	57					
	首巻図解	58					
	近刊雑誌	58					
	社告〔第十一号より編集主任・滝川亀太郎、補助・塩田眞、大森惟中に依託〕	59					
	●第十一号〔明治二十二年八月二十五日〕						
第一図	古屋重寿縮写「聖徳太子影像」〔多色石版〕	63					
第二図	社中薫縮写「応挙四季美人図」	65					
第三図	平山英三「希臘模様三種」	67					
	第四図 社内撰「野路の萩」						69
	本誌改正の要旨						71
	書叢						74
	論叢						
	美術園の改正に就きて					滝川亀太郎	75
	東京英和学校卒業式に臨んで〔九鬼隆一演説〕						
	日本美術協会報告第十九号より転載						77
	談叢						
	愛読者某君に謝す					大森惟中	81
	新著百首第三号〔思案外史「乙女心」、紅葉山人「風雅娘」批評〕					松江釣史	84
	流行新聞と楽雅記						85
	ふみのくさむら						
	美術園の七叢を詠して						
	梅の舎かほる〔丸岡九華〕						86
	うめ、蒙古					三村安臣	87
	西郷隆盛の霊前に					福羽美静	87

をりにふれて

井上通泰

87

馬上聞杜鵑

地日保美

87

月前水鶏

畠山 健

87

梓弓

田村竹琴

87

訪大森先生呈一律代刺

久保檜谷

88

檜谷君賜一詩却呈

大森惟中

88

大久保湘南帰郷云々他三詩

萩野和庵

88

藝叢

那智の文覚

独幹敖史〔大森惟中〕

89

史叢

支那泰西ノ起原及び其進歩

華陵明石中和

91

雑叢

凶案募集〔皇城門外立像〕

95

御歌会

97

長命晏春翁逝く

97

高野茂氏〔国風音楽首唱者〕

97

岡倉覚三氏〔日光出張〕

98

東京彫工会

98

美術奨励〔時事新報七月二十五日転載〕

在巴里・高橋

99

郵便切手の製造

101

愛知青年美術会

101

東京美術学校〔生徒募集と試験科目〕

101

社告

102

近刊雑誌

102

学叢〔東京彫工会講話三編〕

102

服飾雅俗辨

黒川真頼演説・市東謙吉速記

103

図学初歩 一

平山英三

109

人体彫刻辨 一

今田東演説・市東謙吉速記

115

美術園合本広告

118

●第十二号〔明治二十二年九月三十日〕

第一図 加納夏雄作「銀彫秋草皿」

121

第二図 七氏〔狩野永憚・松本楓湖・滝和亭・川端〕

古器物展覧会の模様

滝川亀太郎 188

三百年祭展覧会余聞

談叢

独幹教史 192

伊国彫刻物展覧会

戦争の美術 二

学叢

ふみのくさむら

図学初歩 二

平山英三

たまくしげ

うめのやかをる

●第十三号 (明治二十二年十月二十七日)

第一図 ヘントシール氏画稿「児童遊戯の図」

再呈大森先生云々

久保檜谷

第二図 田井正之助「七叢大和模様」(多色木版)

与大森君唱和之韻

同

第三図 高橋玉淵「秋花双鶉図」(青年絵画共進会)

史叢

同

一等賞、着色木版)

日本陶器製造沿革の概略

第四図 「運慶二王彫刻の図」〔波間の千鳥〕挿図)

アラグスチウス、フランク

摂理の主旨

大森惟中

藝叢

畫叢

〔大森惟中〕

波間の千鳥 二

睡花亭蝶夢

論叢

雑叢

美術の心得 二

前田香雪

辞令

本誌主筆を辞したる理由並に改正に就きての意見

宝物検閲

203

202

198

196

177

175

173

196

196

194

160

159

159

158

古代錦の模造	203	学叢	
東京応用画会の設立	204	図学初歩 三	平山英三
普通学科中に毛筆画	204		
明治美術会の展覧会	205	●第十四号 (明治二十二年十二月二十日)	
東京彫工会の競技会	205	第一図 後藤魚洲写「児童娯楽の図」	223
臨時美術展覧会	205	第二図 七女史〔杉浦玉舟・跡見花蹊・野口小蘋・	
是真会の計画	206	奥原晴翠・武村耕靄・高林芳谷・跡見玉枝〕合作	
絵画研究会の画題	206	「七叢花卉合作」(見開き、着色木版)	226
古武器類の展覧	206	第三図 社中撰「野路の萩」	229
工芸倶楽部設立の計画	206	第四図 後藤魚洲「波間の千鳥挿図」〔本文中〕	229
建築参考図〔辰野金吾欧州土産〕	207	社告	杉崎歸四之助
勸業博覧会参考室の建築	207	畫叢	231
京都諸宮殿の屋根	207	論叢	
京都大仏の瓦工	207	美術と工業との区別・博物館の効用 一	
〔日本美術協会〕列品館増築費募集	208		山本五郎
河辺御楯氏の献画	209	画家諸公に望む〔裸体画を描かぬ事を望む〕	233
羽田子雲翁	210		井上正雄

	談叢		
	戦争の美術 三	独幹教史	238
	伊国彫像展覧会批評〔明治美術会報告第二回より 転載〕		240
	ふみのくさむら		
	菊契千秋	千葉胤明	242
	和歌三首	うめのやかをる	242
	たまくしげ(つづき)	同	242
	和歌二首	遠藤芳樹	243
	和歌三首	富永寛容	244
	冬日与一友云々	遠藤靄軒	244
	史叢		
	群盲古楽器を摩づ〔古楽器の保存〕	池内就富	246
	藝叢		
	波間の千鳥 三	睡花亭花蝶	248
	雑叢		
	辞令		253
		明治美術会へ行啓	253
		日本美術協会へ行啓	254
		美術品天覧	255
		御贈幅〔野口幽谷三幅対〕	256
		松浦伯の献画〔片山貫道双幅〕	256
		画伯〔田崎〕草雲翁	256
		二万円の美術品〔日本美術協会へ二万円を下附〕	256
		楠廷尉騎馬の像	257
		涛川氏の出品	257
		東京彫工会第四回競技会	257
		九鬼氏の取調	258
		出品鑑別	258
		凶聞〔福島柳圃病没〕	258
		今田東君の吊辞	259
		渡辺洪基	259
		風流の賊	260
		天雁堂〔長尾無墨氏堂号〕	260
		学叢	260

図学初步 四	平山英三	明治美術会員に望む 一	大森惟中	295
人体彫刻辨 二	今田 束	是真翁の意匠	竹葉や蝶子	299
社告〔発行遅延の件〕	272	ふみのくさむら		
●第十五号		今様四題	うめのやかをる	301
〔表紙の第十四号及び発行月日は誤記〕		和歌五首	遠藤芳樹	302
第一図 石井重賢「奈良薬師寺安置木彫着色神功皇 后御像」(多色木版)	275	象牙彫刻法序	佐野雪津	302
第二図 益田香遠自刻「凍石篆刻印款」	276	大津駅逢雪他四題	遠藤靄軒	302
第三図 後藤魚洲写「ヘントシール画稿 児童破甕 図」	279	藝叢	睡花亭主人	303
花角力の予報	281	波間の千鳥 四	独幹敖史	306
論叢		史叢		
博物館の効用 二	284	歴史画の必要		
美術上の意見〔明治美術会月次会〕		雑叢		
ジョサイア・コンドル演説	286	三大博覧会褒賞〔バルセロナ万国博覧会・パリ万 国博覧会・内国勸業博覧会〕		
山本五郎		工業者の榮譽		
鹵田生〔塩田眞〕	293	明治麒麟館		
美術上と美術家		毛筆画及び彫刻科		

	天長節御題詠進歌	311
	京都奈良博物館	313
	万国の模範	313
	雲上の知己〔油画師加地為也〕	313
	御注文	314
	京都の画家	314
	京都の偽物	314
	恩賜金〔柴田是真へ恩賜〕	315
	米国に於る日本画の近況	315
	故大村兵部大輔の銅像	315
	大日本国風音楽会	316
	〔渡辺〕 華山翁の逸品	316
	和蘭王の肖像	317
	〔尾上〕 梅幸の発奮	317
	不遇と沈黙〔西洋画師の不遇と日本画師の沈黙〕	317
	明治美術協会	318
	東京彫工会	318

しらせ〔学叢掲載中止〕

318

●第十六号（明治二十三年二月二十四日）

	第一図 莊司竹真模「是真翁考案徳若五万歳の図」	
	（多色木版）	
	第二図 社員撰「野路の萩宝模様」（多色木版）	325
	第三図 田中雄写「ヘントシール画稿 博物家野外に遊ぶ」	327
	第四図 村瀬玉田「総合課題三白一青」	329
	第五図 荒木寛畝「同」	331
	第六図 古屋重寿「茶托考案図」	333
	五万歳の祝詞	335
	〔第三回内国勸業博覧会〕 美術品審評員私選の広告	
	〔大森惟中〕	336
	畫叢	
	美術園の初刷に絵合の新挙を祝す	344
	睡花亭主人	341
論叢		

Chevreul氏色彩論之綱領	塩田力蔵	344	国風音楽所創建	366
明治美術会会員に望む 二	大森惟中	348	京都美術会発会	366
ふみのくさむら			油画の梅〔山本芳翠の第三回内国勸業博覧会出品 画〕	366
玉くしげ	うめのやかをる	353		
和歌五首	坪井山舟	355	第三回内国勸業博覧会	366
詩	益田香遠	355	日本刀	367
詩	大久保達	355	勸業博覧会の列品館	367
詩二題	高柳快堂	357	陶器画工組合	367
藝叢	遠藤靄軒	357	遊就館の陳列品	367
波間の千鳥 五	睡花亭主人	357	九鬼宝物取調委員長	368
史叢			総集会〔第三回内国勸業博覧会会議〕	368
画工諸君に歴史画の着手を望む	芳樹生	360	画家花角力顔触〔日本画家〕	368
雑叢			美術園拡張広告〔大森惟中勸業博覧会囑託に出向の ため、第十七号より海鶴日置政太郎を主筆とする〕	371
御歌会始の和歌		363	社告〔美術園の販売を文林堂に一手販売委託〕	372
古宝物陳列		365		
〔幸野〕梅嶺氏の画		365		

●第十七号 (明治二十三年三月十五日)

談叢

見聞のまま 二

君山居士 398

第一図 石井重賢縮写「木彫仲日売命御像」(多色木版)

(所蔵不明のため掲載不可)

第二図 香山子撰「野路の萩龍模様」

375

第三図 田中雄写「ヘンシートル氏二女子遊戯」

〔版損傷のため掲載せず〕

第四図 渡辺省亭「絵合課題国華放輝」(多色木版)

(所蔵不明のため掲載不可)

第五図 久保田米僊「同」(多色木版)

377

社告

杉崎歸四之助

379

畫叢

美術論

〔日置政太郎〕

382

論叢

聴一方の美術に付て

黒木安雄

385

臨画帖説明〔文林堂発行『臨画帖』より転載、毛

筆画と鉛筆画の得失〕

植田竹次郎

389

談叢

支那画家の意匠・彫刻家の心得・名優・平賀源

内と近松門左衛門・詩歌・俚歌亦探るべきもの

なり

独尊堂主人

402

海島王を読む

ふみのくさむら

波間の千鳥 六

詩二題

詩三題

和歌二首

雑叢

第三回内国勸業博覧会関連記事

米国万国博覧会

波欺人の書癖

日光美術展覧会

廣告〔臨画帖・日置海鶴著『海嶋王』〕

睡花亭主人

愛香疲仙

欽堂居士

宮崎幸麻呂

406

409

410

410

410

410

410

411

411

411

411

411

413

413

413

413

413

●第十八号 (明治二十三年四月十五日)

深く愛読者諸君に謝す〔岩佐又兵衛「浮世絵人物」

恥を云はねは理か聞ゑぬく

安田米阿弥 438

木版の図版掲載遅延の断り〔杉崎歸四之助〕

史叢

海鶴仙史〔日置政太郎〕

439

第一図 椿椿山「蘭」(多色木版)

(420)

第二図 野村文挙「課題 月明船音参差出」

浮世又兵衛の伝

441

(多色木版)

ふみのくさむら

442

第三図 佐竹永湖「同 風定池蓮自在」(多色木版)

詩

神波即山

442

第三回内国勸業博覧会〔審査官諸子、依怙鼻肩の沙

詩

堀 鶴梁

443

汰をして其の審査を誤るなかれ)

詩二首

長尾雨山

443

〔杉崎歸四之助〕

詩二首

松本菟洋

443

畫叢

詩

岡田劔西

444

論叢

和歌

前田寶寿・他

444

川田文学博士の講演を読む

波間の千鳥 七

睡花亭主人

446

談叢

雜叢

祇園南海の蘭亭叙の図案

第三回内国勸業博覧会(開場式・機構他)

449

見聞のまま 三

君山居士

437

五千円の屏風

454

栗堂小史

434

今人の詩は古人に及はず・俳優の氣勢・一字の師

仏国博覧会我国出品の褒賞

唐宝相花鑑

上野美術会

日本絵画の未来〔明治美術会演説〕

外山正一

九鬼審査長の演説〔博覧会審査について〕

伊国公使〔マルチノー〕の美術論〔同上〕

広告

455 455 462 456 455 455

マルチノー

499

●第十九号（明治二十三年五月十五日）

福地復一図案「ささらかた」図案集より（二図中、

社告〔第二十一号より工藝家のための参考図案を収

508

一図多色木版）

（466）・467

〔第二回内国勸業〕博覧会所感

畫叢

471 469

談叢

見聞のまま 四

君山居士

472

詩人の狂・古文の妙・動物の雕刻及び絵画

史叢

浮世又兵衛の事蹟

栗堂小史

473

〔村田〕珠光の像併に伝

緑雲堂主人

476

藝叢

『美術園』人名索引

凡 例

一、本索引は、『美術園』全二巻の記事執筆者及び見出しに掲出する人名を五十音順に配列したものである。

一、掲出箇所は、巻数を丸数字で、頁数を漢数字で表示した。

一、記事執筆者及び演説者の場合はゴシック体で、見出し中の場合は明朝体で掲出頁を示し、また口絵図版に関しては「図」の字を付した。

一、()内に表記した仮名は、本誌中で記事執筆者が使用しているもので、本誌解説者が特定したものである。

あ

愛香疲仙

②四〇九

明石中和（華陵）

②九一

朝比奈珂水

①三八七

跡見花蹊

㊦

②二二六

跡見玉枝

㊦

②二二六

雨森精翁

①二七二

荒木寛畝

㊦

②三三一

有栖川熾仁

①五七

アラグスチウス、フランク

②一九六

アルフレッド、イースト

②五四

い

池内就富

②二四六

石井重賢

㊦

②二七五

市島金治

①二九・七八

井上 馨

①九三・三四一

井上正雄

②二二六

井上 勤（烏金山人）

①八二・一二五・一七三・

二二六

井上探景

㊦

①一〇七

井上通泰

②八七

今田 束

②一一五・二五九・二六〇

いりまめ居士

②四三二

う

ウキクトル、ユーゴー

①三二三

植田竹次郎

②三八九

浮世又兵衛

②四七三

烏金山人 ↓井上勤

①一九九

内海祥山

㊦

梅の舎かほる

↓丸岡九華

江崎禮忠

①一七八

エツケルト

①二三二

遠藤靄軒

②二四四・三〇二・三五七

遠藤芳樹

②一四〇・一四一・一四四・
二四三・三〇二

お

老松舎主

①二七二

鶯村居士 (吉岡哲二郎)

①二六

大久保達

②三五五

大熊氏広

①三四

大鳥圭介

①四五二

大森惟中 (独幹教史・
独醉狂夫)

①三五七・四三八 ②三・
八一・八八・八九・二二九・
一三七・一五〇・一八一・
一八三・一九二・二三八・
二八一・二九五・三〇六・
三三五・三三六・三四八

大森解谷

②一九六

大和田建樹

①四四八

岡田劔西

②四四四

尾形月耕

㊦

①六三・二三一・三〇七・
四一九

小川三知

①七八・一七〇

奥原晴翠

㊦

②二二六

落合直文

①二七二・二九五・三八六

音川安親

①七六・一六二

尾上梅幸

②三一七

か

海鶴仙史

↓日置政太郎

②三三三

加地為也

②三三三

葛飾北斎

①三三五・四〇〇

狩野永恵

②二二四

加納夏雄

②二二一

河鍋晓斎

①二八四・三三六

河辺御楯

㊦

①二四五・四五〇 ②二二
四・二〇九

川辺白鶴

①三四〇

川端玉章 ㊦

② 一二四

神波即山

② 四四二

環峰居士

① 八一

き

祇園南海

② 四三四

菊池容齋

① 二八七

衣笠豪谷

① 四一七

㊦

欽堂居士

② 四一〇

く

九鬼隆一

① 三七・八八・一三〇・

三九四 ② 七七・二五八・

三六八・四五六

② 一四二

日下勺水

② 八八・一九六

久保檜谷 ㊦

① 五・二四九

久保田桃水

① 八七 ② 三七七

黒川真頼 ① 二六一・三一七・

三七〇・四五五 ② 一〇三・

一四五

② 三八五

黒木安雄
君山居士 ↓ 滝川亀太郎

け

瓊浦散人 ↓ 松本胤恭

こ

幸野梅嶺 ② 三六五

五岳 ㊦ ① 九

国分高胤 ② 三八七

五姓田義松 ① 三八六

後藤魚洲 ㊦ ② 二二三・二四九・二七九

小中村義象 ① 四三五

小中村清矩 ① 四四三

小林清親(眞生楼) ㊦ ① 三・六一・九九・一四五・

二〇五・二四一

近藤芳樹

①四三二

さ

阪 正臣

①二七一

佐竹永湖

㊄

②一二四・四二三

佐藤六石

①四四三

佐野雪津

②三〇二

佐野常民

①二八五・三三三・四一三

山東野人

①一一二・一六三・二二八・

二六五・三七九 ②三二二

し

塩田 眞 (鹵田生)

①一三四・一七九 ②二九

三

塩田力蔵

①三四四

紫海小漁 (漁夫)

①四二四 ②一六

柴田是眞

①一七 ②三一五

清水三寿

①一九五・四一三

莊司竹真

㊄

②三二三

眞生楼 ↓小林清親

ジョサイア、コンドル

②二八六

す

睡花亭蝶夢 (主人・花蝶)

②一五一・一九八・二四八・

三〇三・三四四・三五七・

四〇六・四四六

杉浦玉舟

㊄

②二二六

杉崎歸四之助

①二一・六九・一一一・一

五七・二〇七・二五一・三

〇九・三五九 ②一三・七

一・一二九・二三一・三七

九・四一九・四二五

杉本克次

①一二三

鈴木券太郎

①二七二

せ

鮮齋永濯

㊄

①一一

た

田井正之助 ㊄

②一七五

高野 茂

②九七

高橋愛山(基一)

①一二

高橋玉淵 ㊄

②一七七

高橋五郎

①二四・四二一

高林芳谷 ㊄

②二二六

高村光雲 ㊄

①三五三

高柳快堂

②三五七

滝 和亭 ㊄

②一二四

滝川亀太郎(君山居士)

①七二・一五九・三三二

②七五・一八八・三九八・

四三七・四七二

①六五・二〇三

武笠匪石

①四四三 ②四一・一四

三

武田安親 ㊄

①三五三

武村耕靄 ㊄

②二二六

竹葉や蝶子

②二九九

太宰春台

②一五〇

田崎草雲

②二五六

達観道人

①二一三

田中 雄 ㊄

②三二七

田中芳男

①二三一・二五三

田中義成

①四四四

谷 文晁

②五七

谷山春窓

①四四九

田村竹琴 ち

②八七・一四一

近松門左衛門

①三三四 ②四〇〇

千葉胤明

②二四二

地日保美

②八七

沈 南蘋

①三三三

つ

椿 椿山

①四三二 ②(四二〇)

坪井山舟

②三五五

と

東郭散史

①三三一

藤堂凌雲

①(二〇八)

独幹敖史

↓大森惟中

独醉狂夫

↓大森惟中

独尊堂主人

②四〇二

富永寛容

②二四四

外山正一

②四八〇

な

長尾雨山(無墨)

②一四二・二六〇・四四三

中川重麗

①三一五 ②一三四

中島亨斎

凶

①二四三

中村明石

①四五〇

中村さく

①一七〇

涛川惣助

①一九七・三三四 ②二五七

に

西村天囚

①三三二 ②四一

西村泊翁(茂樹)

①三八七

ね

ネット

①九三・一三五

の

野口小蘋

②二二六

野口幽谷

①一二四 ②二五六

野村文挙

②四二二

野村文紹

②一三一

は

萩野和庵

①二七二 ②八八

畠山 健

②八七

羽田子雲

①三三六 ②二一〇

林 夔臣

②一四一

ひ

日置政太郎(海鶴仙史)

②一四三・三八二・四三

九

樋口探月

凶

①三〇一

日高鐵翁

凶

①七

樋畑雪湖

凶

①二〇一

平賀源内

②四〇〇

平山英三

②六七・一〇九・二六〇・

二一〇・二六〇

広国

凶

①一五五

広島邦光

凶

①一九七

ピング

①九三

ふ

福井さく女

①二七五

福島柳圃

②二五八

福地復一

凶

②(四六六)・四六七

福羽美静

②八七

古屋重寿

凶

②五・六三・一二七・三三三

ブリנקリー

②二五

フレデリック、ハリソン

①二一五・二六八・三三五・

三八三・四四〇 ②三五

へ

ヘルベルト、スペンセル

①三六二

ヘントシール

凶

②一七三

ほ

細川潤次郎

①二一〇・一六五・二二〇・

三一九・三七六

本庄太一郎

①三六二

堀 鶴梁

②四四三

堀 芥舟

①二七二 ②四二

ま

前田香雪(健次郎)

②一三一・一八六

前田寶寿

②四四四

卷 菱潭

①(三〇八)

益田香遠

②二七六・三五五

松江釣史

②八四

松本胤恭(瓊浦散人)

①一一七・一六七・二二二・

三三一・三六六

松本菟洋

②四四三

松本楓湖

①一五 ②一二四

真木痴囊子

①八〇

丸岡九華(梅の舎かほる)

②八六・一九四・二四二・

三〇一・三五三

丸山応挙

①三三八 ②六五

マルチノー

②四九九

み

三上参次

①二五八・三二二

三島蕉窓

①三〇五

図

三村安臣

①三三一・三八五 ②四一・

八七

宮崎幸麻呂

②四一〇

む

村上義和

図

①四一五

村瀬玉田

図

①一〇二 ②三二九

村田珠光

②四七六

や

安田米阿弥

②四三八

山下重民(鶯陵迂人)

②一四九

山田美妙齋

①二六・七〇

山高信離

①一七九 ②一一・五三

山本五郎

②二二三・二八四

山本芳翠

②三六六

よ

芳樹生

②三六〇

り

リベルチー

①四五一

栗堂居士(小史)

②四三四・四七三

緑雲堂主人

②四七六

ろ

老牛親史 魯文

①八二

鹵田生 ↓塩田眞

わ

和田蓼洲

①一八二

渡辺華山

②三一六

渡辺洪基

②二五九

渡辺省亭

①五九

凶